

日増しに明るさを増す朝夕の日差しに、登校坂の桜の芽も膨らみ、春の訪れを感じる季節となりました。本日ここに、振興会会長川上殉（かわかみ じゅん）様、まつら同窓会会長中島幸利（なかしま ゆきとし）様をはじめ、ご来賓の皆様方、保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和三年度 佐賀県立唐津西高等学校 第六十六回卒業証書授与式を挙げてまいりますことは、大変有り難く、心より厚くお礼申し上げます。

本日めでたく卒業される百五十八名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前の平成三十一年四月十日、和の新しい時代に向かう皆さんはこの場所で、式辞で「人は一人では生きていけません。人と関わる中で自分自身のことがわかり、責任感や協調性、人を思いやる心なども養われていきます。積極的に人と関わり、人から学ぶことは、自分の将来を考えると必要不可欠なことです。高校生活の中での多くの人との出会いを大切にしてください。『他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる。』という言葉があります。自分を変え、未来を変えるのに必要なことは何でしょう。それは、自分のあるべき姿を見つけること、志を持ち、志の実現に向かって前進することを望みます。」という言葉で入学を許可されました。

令和という時代の幕開けとともに希望に満ち溢れると思われた高校生活は、新型コロナウイルス感染症により2度の臨時休業や高校生活で一番の思い出となる修学旅行の中止他、多くの教育活動が影響を受けました。

しかし、コロナ禍で多くの制限ある学校生活の中で、卒業生の皆さんは期待に応え、新しい形の双松祭（体育大会）を卒業生が中心となり、「師弟同行」の精神のもと一致団結し、成し遂げることができたことは見事でした。そして感動しました。

また、総合型・推薦試験において国公立大学**18名**の合格及び唐津市役所などの公務員**9名**の合格をはじめとする学習の成果は勿論、制約が多い中、「男子ヨット部の九州大会団体優勝、上園田心太浪さんの全国総体3位」や「ボランティア部や女子バレー部の教育長表彰」などの部活動での活躍やオランダとの国際交流によるグローバル教育の推進、「唐津ロータリークラブ」「NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE」「からつ未来ギフト実行員会との連携協定」「からつ応援市場」「ゲンコウ復活プロジェクト」「唐津検定受検」などの特別活動において地域社会から高い評価を得ることができ、本校の「地域社会の未来を担う志のある人材の育成」のスクールポリシーの礎を築いてくれました。そして何より、進学や就職という人生の節目「18歳」である進路決定に際しては、過去最高の共通テスト受検者、そして現在も諦めることなく、厳しい試験に耐え抜いて、挑戦してくれています。

こうした皆さんの姿は、部活動や双松祭での力強いリーダーシップとともに、西高「まつら」の伝統の中に、新たな一頁として書き加えられ、後輩たちが地元に貢献できる志を持って、しっかりと受け継いでくれるものと信じています。それを温かく見守り、今まで一心に支えてこられた保護者の皆様のお喜びは如何ばかりかと、心からお祝い申し上げます。

あなた方は、Society5.0（超スマート社会）の実現に向けて技術革新、新型コロナウイルス感染症との戦いのなかに生きていきます。「人生100年時代」を豊かに生きていくために夢や希望を持ち、その実現のために取り組むためには、「双松の力」の中で、特に基礎・基本となる知識や技能を身につける力「基礎力」相手の話に耳を傾け、熱心に相手の気持ちに寄り添いながら聞くことができる力「傾聴力」自ら志を立て、努力して実現できる力「自走力」が必要です。この「基礎力」「傾聴力」「自走力」は不安や悩みが差別を生む感染を断ち切り、社会的弱者へ「優しさ」や「思いやり」持つ行動と志を育てます。まさに本校の三つの教育

指針「師弟同行（共育）」「朝（あした）に希望 夕（ゆう）べに感謝」「明るい挨拶 気持ちの良い挨拶」と「双松の力」の実践が生き抜くためには必要です。

「人生100年時代」を希望に満ち溢れ、生きていくためには、自分の夢や目標をしっかりと持って、その実現に努力するとともに、社会の中で自分の役割を考え、自分の人生に「志」を持ってほしいと思います。この「志」という漢字の上部の「士」はもともと「之」の字が当てられており、「行く」という意味がありました。そして、「士」と「心」を組み合わせることで「心が行く」から「心が突き動かされる」と変化し、「志」という漢字ができました。自分の気持ちが向かうところ、つまり「内から発露される強い気持ち」を表現しています。例えば、「困っている人のために少しでも役に立ちたい」「ふるさと唐津に貢献したい」という思いを持てば、もう立派な「志」だと思います。「志」を持つためには心を変えなければなりません。

そこで次の言葉を卒業式に当たり贈ります。

心が変われば 態度が変わる。

態度が変われば 行動が変わる。

行動が変われば 習慣が変わる。

習慣が変われば 人格が変わる。

人格が変われば 運命が変わる。

運命が変われば 人生が変わる。

この言葉を心の片隅に置き、ぜひ人生の指針としてください。

ところで、本校は、一九〇七年（明治四十年）に町立唐津女学校として設立され、本年度創立百十四年目を迎えています。「朝（あした）に希望、夕べに感謝！」の建学の精神のもと、地域社会に貢献できる志のある人材の育成を目指してきました。皆さんが座っている椅子、この目の前にある演台、20年間以上語り継がれている顕彰講話ハナコフェアの「先輩の勇気ある行動を語り継ぐあかし」のハナ子顕彰碑などは「まつら同窓会」の方々から寄贈されたものです。そして「まつら同窓会」は関東、関西、福岡と各地に支部があり、毎年6月に唐津市内で同窓会総会が開催されます。このように、卒業生の皆さんと学校は、同窓生という決してお金で買うことができない強い絆で結ばれているのです。これからは、コロナ禍で人間関係がますます希薄となる中、今までと違う新しい生活により孤独を感じることもあると思います。ここは、「志」に向かって、それぞれの分野で行動（Action）する皆さんが、少し立ち止まって、自分の位置を振り返る（Reflectionする）場所です。生涯の友、後輩、母校の先生方を思い出すことで、この唐津西高校を卒業したことを誇りに思い、自分が進むべき方向を確認することができるでしょう。

最後になりましたが、改めて保護者の皆様にお礼を申し上げます。入学以来、本校のスクールポリシーをよくご理解いただき、物心両面からご支援を賜りまして、誠に有り難うございました。子どもたちには言えないご苦勞も多々あったことかと存じますが、粘り強く寄り添っていただきましたことに心から感謝申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、それぞれの新しいステージへの旅立ちの時です。伝統ある西高生としての誇りを胸に、しっかりと志を持って歩み続けてください。皆さんの洋々たる前途を祝するとともに、大いなる活躍を祈念しまして、式辞といたします。

令和四年三月一日

佐賀県立唐津西高等学校長

吉山 耕一郎